

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームは郊外の田園地帯立地したことから、法人では地域との交流を考慮して、隣接させて保育園を開設した。保育園児や父母を通して地域との密着に配慮したものである。いわば保育園併設型グループホームであり、その理念は日常的に実践されている。またホーム独自の理念を作成し、実践している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時、職員全員が唱和し、理念の実践に向けたサービスに取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌やホーム内に理念を張り出すなどして、家族や地域の人々に理解してもらえようしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	公民館などに行事のポスターを張ったり、施設の広報誌を配布しながら施設の存在をアピールし、交流を図りながら、ボランティアなど積極的に受け入れている。毎月発行している、当ホーム広報誌「サンライフ堀越」は堀越町会において回覧されている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価について、勉強会を開催しながら、全職員で自己評価を行い、指摘事項があった場合は謙虚に受け止め改善している。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で外部評価への取り組み、利用者へのサービスの報告をし、出席者と話し合いをし、新しい気づきもあり、今後のサービス提供につなげていく。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議のとき等広報誌を配布しながら、評価結果をただちに報告し、課題があった場合は、TEL等で確認しながら連携をとっている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業、成年後見制度について、学習会などで勉強している。現在入居者1名が成年後見制度により支援を受けている。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会などで学ぶ機会を作り、全職員が認識し、ケアを行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時理念やケアについて説明しながら、再度来館した際随時説明し、不明な点がないか聞いている。退居に関しては双方で話し合い、良い方法探した上で退居となる場合もあったが退居先についても充分話し合っている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に入居者の悩み、苦情に耳を傾け、職員同士連携を取り対応している。他に、意見箱を設置している。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時など、ご家族の方にホームでの生活ぶりや健康状態について話している。金銭については出納帳に記入し、月に1回は必ず確認していただき、印鑑又は署名してもらっている。	
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を随時聞き、職員間で連携を取り対応している。掲示板に苦情処理のシステムを明記し、意見箱を設置している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の受け入れや、入居者継続についてカンファレンスなどで職員の意見を聞き対応している。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の要望に対応できるよう、ローテーションを組み調整を図っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない。異動があった場合でも、引き続き同じような環境で暮せるよう、新しい職員にも引継ぎしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	三笠苑全体で取り組んでいる。月1回学習会で研修を行っている他に、外部での研修を職員の希望を取り入れながら年間研修計画を作成し、進めている。研修後は報告書の作成、ホーム内または学習会での報告会を行い、全職員に周知している。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での実習や勉強会を実施し、サービス向上に努めている。（特にグループホーム5施設の情報交換、勉強会を実施している。）中弘南黒地区認知症グループホーム協会（38事業所）の事務局を担当している。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員互助会で親睦を図っているほかに、業務上の悩み、ストレスについては管理者が職員の相談のってやり、解決できない場合は上司に相談するようにストレスの改善に努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各種研修への参加、外部講師を招いての学習会の開催などし、職員が向上心を持って働けるように努めている。健康診断の実施などし、職員の心身の健康を保つ為の体制を整えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談にきた方に対しては、まずホームを見学していただき、雰囲気を感じていただくことから始めている。不安な事、困っている事に関しても話をじっくり聞くことにしている。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞くことを第一にし、こちらで対応できることは対応し、できないことは他部所と連携を取り、本人、家族の方が今必要としているサービスの提供に努めている。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方ばかりでなく、本人もホームを見学してくださるよう勧めている。実際に来て、自分の目で見ることで、安心していただけるようにしている。それから双方の意向に沿ったサービス開始となるよう、充分に話し合いを行い調整している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方と料理を作り、草取りをしたり、雑巾を作ったりと、一緒にすることで職員が逆に教えてもらったり、昔の話を聞いたり喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランのサービス内容として、家族との外出、家族の面会などをあげ、協力していただいている。本人が不安など訴えた時は家族に電話し、安心していただくようにしている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とは定期的に話をする機会を作っている。家族の方とは面会にきた時に、こちらから入居者様の状況を話すようにし、話しやすい雰囲気にならせている		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方、友人の面会を積極的に進めており、面会の際はくつろいでお話できるよう配慮している。本人の生活ができるだけ継続出来るよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の自尊心を尊重し、対立した場合は職員が中に入り、お互いの意見を聴き、話題転換するようにしている。一緒に生活することで連帯感が生まれてきている。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などにより他施設利用になった方に対しては退院後のサービスに関して相談を受けたりしながら、終了後も安定した生活が送れるよう支援し、関係を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に話をする機会を作り、その際本人の希望、意向を聞き、時間を見つけ外出などの機会を作ったりしている。把握に困るときはセンター方式を用いながら本人の意向の把握に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴、趣味などをセンター方式を用いながら把握し、職員全体で周知し、ケアプランなどに生かしている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームの日課表はあるが、強制ではなく、本人の状態に合わせた過ごし方をしていただいている。居室で過ごされることが多い方に関しては、定期的に訪室、声がけしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用いながら、3ヶ月に1回ケアプラン会議を開催している。職員、管理者で話し合いを持って、計画を作成し、家族の方にもプランを見ていただいている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直ししているが、本人の状態に合わせ期間を調整随時家族の意見を取り入れて計画し、経過・評価を行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアを生活記録に必ず記録し、変化のあったときは、申し送り時報告し、情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームでは医療連携体制をとっており、特別指示書による訪問看護を家族への説明を同意を得て行っている。体調急変時など母体である三笠ケアセンター医師、看護師に相談し、対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防団の来館、まとい振り、地域の敬老会参加、堀越神社の奉納祭など出掛けしている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	長期入院退所となった場合は、退院時の本人の状況の応じたサービスの提供をするため、他のケアマネジャー、他事業所との話し合いをし、家族の方も交えて、他事業所利用の支援をしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者に一人成年後見制度を利用している方がおり、担当の支援センター職員とは、連携しながら支援している。地区の包括支援センターとの情報交換を運営推進会議を利用し、計画している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のこれまでのかかりつけ医に受診し、家族に報告相談しながら受診援助を行っており、状態変化の場合は、家族と共に受診する様にしている。結果に関しても一緒に聞き、今後について相談しながら決めている。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームの入居者の半分が健生病院の牧口Drが主治医であり認知症状に関して随時相談し、助言をいただいている。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームでは三笠訪問看護と医療連携契約をしているので、毎週看護師が来て、相談に応じてくれたり、状態観察をしてくれる。24時間体制をとっている。、		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した際には早めの退院に向けて、医療機関、家族との話し合いをしながら、状態把握をし連携をとっている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的に状態を報告しながら、家族と話し合いを持ち入居者の状況に応じ、ケアセンターへのサービス変更を行っている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	三笠訪問看護ステーションとの間で医療連携体制の契約を行っている。又、老人保健施設三笠ケアセンターとも随時連携をとっており、重度化、終末期に向けた、チームでの支援体制をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージが最小限となるよう、移転先への利用者の状況や習慣、好み、これまでのケア方法について、詳細な情報提供を行っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを大切にし、出来るだけ話を聞き、人生の先輩であるという尊敬の念を大切に言葉かけを心がけている。プライバシーの確保には十分配慮している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の嗜好に十分配慮しながら飲み物など提供するようにしている。食事ではバイキング、行事の際には本人の希望を最優先し、自己決定を促している。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの日課表はあるが、本人のペースに合わせ強制していない。利用者からの訴えに対してゆっくり聞き、時には一緒に散歩や草取りに出掛ける。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服を選んだりする際入居者を話しながら決定するようにしている。定期的に来館する床や以外に髪染め、パーマなど希望に合わせ出かけ援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食などで好みを取り入れたり、苦手なものを変更しながら献立を決め、食事の下ごしらえ、準備、味付けなど手伝ってもらい、食事の後片付けなども食器ふきなど分担しながら行っている。可能なかぎり着席しながら食事の時間を楽しんでいる。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー、お茶、ジュースなど本人に選んでいただいている。花見、年越しなど行事の際にお酒、ビールなど飲みたい方に提供している。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的なトイレ誘導声がけをしながら、排泄パターンが把握できていない入居者に対してはチェック表を用いて個別に把握するよう心がけ気持ちよく生活していただく。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1ユニット2ユニット入浴日は決まっているが、皮膚状態、希望にあわせ回数など決めている。入浴の際には入り口にのれんを下げ気をくばり、拒否がみられても無理強いせず気持ちよく入浴していただく。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	外出の後や疲労が見られた時は休息を十分していただいている。眠れない入居者に対してはゆっくり睡眠が取れるよう、必要に応じ水分や食べ物をいただき付き添う。眠剤に関しては主治医と十分相談し、指示にて服用している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の生活歴、会話により、得意とする事や、やってみたい事を把握し本人の生活の張りになるよう援助している。(草取り、裁縫など)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	自己管理の出来る方は、所持している。お金の 管理ができない方に関しては家族からお金を預かり、 受診時、必要時に使えるよう支援している。 場面によっては低額のお金を持ちお菓子や電話を かけたり、出掛けた際に本人に支払いしていただ いている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	天気の良い日は館外散歩や畑、草取りなど希望 に合わせ外に出ている。歩行のおぼつかない方でも 補助具を使いながら気分転換をしていただいで いる。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	毎日の会話の中で行きたいところを把握し、で きる限り行けるよう、外出の計画をたて実行して いる。職員で対応しきれない所は家族に相談し、 協力をお願いしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	公衆電話を使い掛けたいときには、いつでも掛 けることができる。ひとりで出来ない入居者には 必要に応じ援助している。掛けている時は話しや すいよう配慮している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	面会時間以外でも事前に連絡いただければいつ でも対応している。お茶の時間には皆さんと一緒 に飲んでいただくなど、くつろいでいただくよう 配慮している。宿泊していくご家族もいらっしや る。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに関して学習会で学習して いる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自動ドアで対応しており自由に出入りが できる。居室や廊下なども自由に行き来し散歩し ている。館外へ散歩へ行く際は見守り付き添い にて支援している。入居者の不穏時にやむを得ず施 錠する場合は家族へ説明し同意を得ている。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しなが ら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している	見守りしやすい場所を職員が周知しており安全 確認に努めている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤など保管場所を決め対応しており必要 に応じ施錠している。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	ミーティング時やホームの会議の際、入居者の 状態を話し合いし事故防止に努めている。事故が あった場合ヒアリはつと報告書などに記入し全職 員に報告し整理保管している。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的 に行っている	夜間の緊急時対応マニュアルが作成されており ケアカンファの時に確認している。消防署の方よ り救急救命の研修を受講している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている	年に二回避難訓練の他に夜間を想定した訓練を 実施している。日ごろより地域の消防団と交流が あり災害時に備え物品を用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族が面会に来た時にホームでの生活や状態を説明している。起こり得るリスクを事前に説明しご家族と一緒に対応の仕方を見直ししている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病、アレルギーの有無、留意事項を把握している。日々の健康観察に顔色や様子に注意をはらい職員間で伝達する。必要に応じ医療機関に相談している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの一番最後に服薬している薬の情報の紙を入れて確認できるようにしている。飲み忘れや誤薬がないよう必要な方には援助している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のバイタルチェック時に排便を確認し、自然排便を促すよう水分や食べ物を工夫している。下剤を服用している入居者はドクターと相談の上、適量を服用し排便コントロールを行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	研修、学習会で口腔ケアについて学習し理解している。毎食後入れ歯の手入れを働きかけ声がけや援助している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたメニューを参考にしながら作成している。食事・水分摂取量は概ね把握しており、少ない入居者に関しては記録し声がけ援助している。本人の好みに応じパン食など提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防に対しマニュアルを作り、職員個々に学習している。感染に関する情報を収集し広報を通し、家族の方にもお知らせしている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具などの清潔を保持するためのマニュアルを張りだし実行している。食材の在庫表や冷蔵庫の清掃日を決めるなど、食材を有効に使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を植えるなど、入りやすい玄関作りに配慮している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を保てるよう鉢植えを置いたり金魚を飼育し、季節感を出している。日差しや照明などに気を配り居心地を良く過ごせるよう工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子のほかに玄関や廊下などにソファを置き、くつろいでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用していた家具などを持ち込み、生活している。また使い慣れた小物も持参し喜ばれている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ニオイやだよみがなく、定期的に換気を行っている。定時に温度・湿度を確認し、温・湿度調節を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手すりなどを設置し、転倒防止に努めている。居室の流し台などは高齢者や車椅子の方でも使いやすい高さで設置している。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	まぎらわしい表示や混乱を招くような環境を速やかに解除し、場所間違いを防ぐために部屋のドアに大きく名前を表示し工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にプランター・ベンチを設置し、子供たちと触れ合いながら楽しく過ごしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の 2 / 3 くらい 3 利用者の 1 / 3 くらい 4 ほとんど掴んでいない 利用者の生活歴をふまえながら、その人らしい暮らし方をしてもらうよう援助している。
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある 2 数日に 1 回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない 1 日のスケジュールの中で必ず利用者の方々と接する時間を設けており、上手にコミュニケーションをとっている。
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない 1 日のスケジュールはあるが、無理強いせず個人のペースで生活していただいている。
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない ゆっくりとした生活の中でコミュニケーションを多くとるようにしており、笑顔が多いと思われる。
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない 出来るだけ希望を取り入れ可能な限り買い物など外出しているが、すべての要望にはこたえられていない。
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない 主治医を中心に看護師と連携をとり職員全体で健康管理を行っており、不安なく過ごせている。
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の 2 / 3 くらいが 3 利用者の 1 / 3 くらいが 4 ほとんどいない 出来る限り利用者の要望にこたえ接しており、安心して暮らせている。
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と 2 家族の 2 / 3 くらいと 3 家族の 1 / 3 くらいと 4 ほとんどできていない 家族が来館の際、要望を聞き出し職員全体で取り組んでおり、信頼関係が出来ていると思う。
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない 直接地域の方々と接する機会は少ないが隣接している保育園児の来館や父兄との交流を行っている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている ②少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	会議を通し、徐々に施設の事を理解していただき増えつつあると思う。
95	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員のストレス、悩み事など聞きだすようにしており、悩み解消に協力し、職員同士の連携もとれている。
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望には出来るだけこたえるようにしており、安心した顔で生活している。
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族と密に連絡を取り合い要望を聞き出しながら、満足していただくよう努めている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・隣接している保育園との交流を持ちながら、世代を越えた様々な人たちとコミュニケーションをとり、生きがいを持ちながら生き活きと暮せるよう援助している。
- ・地域に根ざすホームを目指し、公民館をはじめ児童館、消防団など行事には出掛けていたり、来館したりしながら、交流を持っている。